

● 肉 牛

《アップラン目標値》.

- ◎去勢牛 枝肉重量600キロ 格付A5 BMS 8～ キロ単価2,500円～
- ◎雌 牛 枝肉重量500キロ 格付A5 BMS 8～ キロ単価2,500円～

《重点取組目標》

①飼養管理基本のポイント

- 固形塩、カウストンの常置
- 飼料の給与は1日2回に分ける
- 飼料ならしを1日2回以上実施する
- 飼料は計量給与する
- 稲わらは細断して給与する
- 健康観察の徹底と病畜牛の早期発見と治療に努める
- 水槽の凍結防止策を講じ、常時新鮮な水が飲める環境にする
- 飼料給与などのデータを記録する
- 1頭当たりの牛床面積、飼槽幅を確保する

＜その他＞

ビタミンA欠乏症、ルーメンアシドーシス、尿石症、ノミ、シラミ、の発生に注意するとともに発生が確認された場合は、獣医師に相談し速やかに投薬治療する

②ステージ別管理ポイント

＜導入時＞

- 導入牛房の清掃・消毒、血中のビタミンAの確認と不足時の投与(80IU/dL以下の時)
- 個体識別登録・確認
- 体重測定
- 寄生虫予防薬の投与

＜前期＞

- 給与飼料の馴らしは2～3週間位かけて徐々に実施する
- 粗飼料を規定量摂取する癖をつけさせるため、濃厚飼料より先に給与する
- 濃厚飼料の増量は、基本的に体型に準じ最大で1週間500グラム
- 飲水装置や水槽の清掃等により尿石予防に注意する

＜中期＞

- 濃厚飼料の増量は、基本的に体型に準じ最大で1週間300グラム
- 濃厚飼料の最大給与量は9キロ～12キロで継続し牛房毎に検討する
- ビタミンAの欠乏症(眼球の突出、四脚の腫れ、下痢等)の症状にはビタミンA給与する
- 削蹄を実施し健康管理を図る

＜後期＞

- 仕上げ期は、備蓄している脂肪交雑が減少しないように飼料摂取環境を与える(新鮮な敷料の敷設、夏期直下型扇風機による暑さ対策、冬季のすきま風防止対策)
- 仕上げ期は、枝肉のキメ、シマリ及び肉色を改善するため粗飼料を制限し濃厚飼料を与える

*ビタミンAのコントロール

サシを入れるため、ビタミンAを低レベルで維持(16ヶ月～18ヶ月で去勢30IU/dL、雌15IU/dL)後半は、ズル、シコリ等予防や食欲回復のためビタミンAの血中レベルを上げる(50万IU～)

*ルーメンアシドーシス、肝炎

粗飼料が不足すると、第1胃内で酸過多となり食い止まり(胸焼け=ルーメンアシドーシス)や下痢となり、やがて肝炎になり肝機能障害を起こし、体調不良となりますので注意が必要です